



第9回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 埼玉

# 自給力・持久力・地域力アップ 3人からできる働く人の協同組合 ワーカーズ・コレクティブってすごいじゃない！

小さな協同組合として働く場をつくりだしているワーカーズ・コレクティブの実践を共有し、価値を確認し今後を展望する機会として、2年に1度開催されるワーカーズ・コレクティブ全国会議が12月5～7日にかけて埼玉県会館・さいたま共済会館にて開催されました。今回は例年に増し、657名という大勢の参加で盛会のうちに無事終了しました。

## 分科会

### 1 3人からの協同組合

ワーカーズ・コレクティブを醸成する社会的基盤づくりに向けて

藤木千草さん（WNJ事務局長）は、「法制化に向けた活動と最近の社会制度改革」について、協同組合法の改変や保険業法の改定などで、次第に協同組合らしさが失われてきていると報告。

神奈川では2001年に、自主共済であるW. Co共済が発足。W. Coメンバーが働き続けられるよう支援する制度だが、2006年の保険業法改定により、自主共済の規制が行われた。「お互い様の共済」が潰されていく状況にどう対応していくかが今後の課題と、事務局W. Co Largoの島田祥子さん。立教大学の藤井敦史教授は「韓国社会的企業育成法の実際と日本での社会的企業法制化運動」について報告。最後に天野正子さん（東京家政学院大学学長）が、「社会的企業が担う公益性とは何か、政府の担う公益性とどこが違うのかなどを明確にし、合意を得ていくことが大事」。「若い人たちに、働くこと・生きていくことの意義、W. Co的な働き方の希望を語り続けたい」と締めくくった。

編集ワーカーズ・くれよん 猪俣悦子

### 2 ほいと思った人がつくるコミュニティ福祉～個人ではできない、3人からできるワーカーズの多様な福祉～

千葉には、コミュニティ福祉ワーカーズがまだないので、近い将来私たちが立ち上げられればいいのになと思い、この分科会に参加しました。

埼玉・愛知・武蔵野市・大阪のたすけあいワーカーズよりそれぞれの実践報告を聞きました。心のこもった介護や子育て支援、市民の手によるコミュニティ福祉に力を入れて生きいきと活動しています。また、介護保険事業や制度外サービス・配食・本人やその家族を支えるネッ

トワーク作りをしているW. Co等介護現場の様子をじっくり聞くことが出来ました。地域でやりたいことと題したワークショップでは、誰もがみんないつかは介護する側介護される側という現実、介護鬱にならないために介護している人を支えるサービスが必要だと痛感しました。

(企) W. Co紙ふうせん 林 満

### 3 食関連ワーカーズの拡充にむけて

137人と最も多い参加があった第3分科会。実際の事業所の課題とその解決のための取り組みについて北海道の「おがずの花」と千葉の「紙ふうせん」より発表があった。また神奈川の「にんじん」からはランチ式経営の実態が紹介され、厳しい状況を懸命に切り開こうとする、ワーカーズのエネルギーを感じた。アドバイザーの生活クラブ・スピリッツの白井和宏専務より、WNJの食関連拡充化チームが首都圏の食の事業所に実施した経営実態調査の結果分析が発表された。食関連事業所の抱えている共通の問題（高齢化、メンバー不足、売上減など）は、個々の事業所の努力だけでは解決できない。W. Co同士、生活クラブグループとの連携を強めることで、事業を強化すべきであるとの方向性が示され、共同する事業についてのいくつかの提案があった（具体化している例として、千葉のおもてなしカタログがあがった）。

1事業所の厨房で、鍋を見つめて気合いとやる気だけで乗り切ってきた我身は、新たな変化を求められている事を感じつつ、今月からメンバーになった7名の若者たちが頼もしく思えた。

(企) W. Coハープ 堀石順子

### 4 ワーカーズ・コレクティブにとつての経営とは何か！事業経営と組織運営の成功事例の報告とその課題と解決策、支援策を考える

この分科会では、WNJのワーカーズ・コレクティブ経営研究会が行ってきた事



例研究を全体で共有し、その内容に基づきワークショップ形式で意見交換を行った。最初に、分科会コーディネーターから、研究会の経緯報告がされ、その後、事例報告として様々な立場の5人のパネラーから、資金繰りや初期の立ち上げから持続するための組織作り、W. Coとしての組織運営、などの話があった。これらを受けて、アドバイザー松本典子さん（駒澤大学経済学部専任講師）からは、持続可能な採算性のある事業運営に必要な要素として、以下6点ほどが挙げられた。①リーダーシップが取れている ②将来を見据えた運営でありそれが情報公開されている ③外部や内部に対してネットワークを形成している ④地域との交流の場が形成されている ⑤常に新規事業を開拓する ⑥自分たちの強み弱みを明確にする。

## 全体会

全体会は、宮野洋子WNJ代表（W. Co千葉県連合会代表）の「ワーカーズ・コレクティブってすごいじゃない！を実感し、今後の活動を展望する会にしましょう」との挨拶でスタート。午前は、「夢でもいいから！」持続可能な地域作りのための事業アイデアを、という呼びかけに応募のあった、7団体の学生、若者たちの発表が行われました。子育て支援について、地域のニーズや市民活動の状況を綿密に調査し、具体的プランを示したもものから、キャンパスの学生食堂活用のための若者らしい愉快なプランまで、

多様な事例が伺えたこと、また事業持続のための人やお金の確保、合意形成の方法などの事例を伺うことができ、大変有意義な内容だった。

(企) W. Coみらい 山崎 恵

### 5 訪問子育て支援事業の問題点と課題

日本大学准教授井上仁さんによる「子育て支援に関する課題」の講演がありました。ワーカーズが行政と共同して事業を進めていく事の重要性に改めて気づきました。パネルディスカッションではNPO法人ACT多摩たすけあいワーカーズつむぎとNPO法人ワーカーズ・コレクティブキッズポケットの訪問子育ての事例紹介がありました。またNPO法人北海道子育て支援ワーカーズからは8団体、133人で社会的発信を行っている発表がありました。

最後に、北海道の子育て支援ワーカーズプーのいえ代表の小川京子さんによる体験実習「遊びの大切さ」のワークショップがありました。子どものように大きな声を出し、笑顔で、触れ合って遊びました。早速習ったいくつかを「子育てひろば ういず」のクリスマス会でみんなと遊ぼうと思っています。

W. Coういず 亀山明美

それぞれ個性的で楽しいプレゼンに、会場は時々爆笑しながらも、とても元気をもらいました。千葉県からは元気クラブ会長の小川達也さんが、「持続性のある都市型農業をミニマムな生産～消費サイクルで実行するぞ計画」として都市部の不耕作地の有効利用、就農希望者の生産参加と生産物の利用のシステムづくり、などの提案があり、近くの実業者として、興味深い内容でした。午後の自主企画は、ざっくばらんに気軽に交流を、というねらいで、話し合いや講座が開かれました。2日間の全国会議を終え、全国のW. Co

開催概要

12月5日(土) 分科会 懇親会  
12月6日(日) 学生・若者によるワーカーズ・コレクティブの事業プラン発表 自主企画 全体会

12月7日(月) オプショナルツアー  
①越谷コース ②平和コース  
③飯能DC見学コース

### 6 生協とワーカーズ・コレクティブとの協同組合型地域社会作り

市民が思い描く地域社会を形成する中で、協同組合として事業を展開する4つの報告から、W. Coや生協などが地域の中で果たす役割分担について考えました。

報告1では、地域の参加型福祉の拠点にするための特別養護老人ホーム「ラポール三ツ沢」建設に向け、生活クラブ神奈川を中心とした運動グループが連携し、福祉事業における専門性と地域市民力が重層的に関わることで、コミュニティ福祉を目指す事例が報告されました。また、報告2の地域交流の場として北海道北広島市「地域食堂かえで」の事例では、食堂の土地家屋探しから地域住民からの理解と支援をうけ、住民が参加できる企画作りなどを、コミュニティ食堂として根差しつつある、というものでした。報告3の生活クラブ埼玉の「くらぶメゾン構想」についても地域コミュニティの場として提案されています。報告4では「グリーンコープ福祉W. Co連合会」は生協組合員からの資金的、人為的支援体制のもと、介護事業、子育て支援、更にホームレス支援へと事業を進め、組合員と連携した地域作りを推進しつつある、との報告がありました。

最後にコメンテーターとして生活クラブ生協連合会長の加藤好一さんからは、W. Coが協同労働の在り方を具体化し、社会の中で果たす役割の大きさを強調した上で、生協もともに歩んでいくとの言葉で、結びました。W. Coみらい 風間由加



### 7 地域で、誰でも一緒に働く～非営利・協同セクターによる実践と試みから

働く意欲を持ちながらも就労の機会に恵まれなかった人たちが、地域での働く場として活躍している5つのW. Coのお話を聞きました。

5人の報告からは、今回のメインテーマでもある「ワーカーズ・コレクティブってすごいじゃない！」が強く感じられました。特に自分たちができることを積み上げて運営を行っている「風車」の話や、「コミュニティキッチンぼらん」「NPOこすもす」の公的助成金や民間の制度をうまく利用した話は参考になりました。どの事例も地域の人たちの理解を受けて運営、営業をしていく中で、働く人たちも自立していく過程が感じられました。個性に合っているのかなど、事例報告が少なかったのが残念に思い今後も情報共有していきたいと思いました。「働きたいと思う人からは、就労の場を奪わない」という力強い発表に共感し、田中夏子さんのイタリアのお話のような協働の仕組みを日本でも作れたら最高の社会ができるのになと思いながら、今日も、木馬でMちゃんの仕事を考えています。

(企) W. Co回転木馬 重 純子

## オプショナルツアー 飯能デリバリーセンターコース

(企) W. Coみらい 山崎 恵



20種類一度に帳合可能。1時間1000部だが、青森から愛知までの20万以上の組合員分を作るのに時間はかかる。

の活動や課題をそれぞれの場で共有し、今後の事業につなげるヒントをたくさん得ることができたと思います。また、法制化などの社会基盤の必要性や組織経営の課題もみえてきました。閉会挨拶で、「仕事を選ぶことは、生き方を選ぶということを実感しました」という埼玉実行委員長大野洋子さんの言葉は、参加者全員が共感したことと思います。それぞれの活動は厳しい状況にありますが、大会アピールをふまえて前向きに進みたいと決意を新たにされた全国会議でした。

広報部 部長 奈良収子